

継続的な課題として  
考えられる内容

## 叙述の仕方の確認

(一文を主語を補って二文にする)

### 問題の趣旨

書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすることができる。

### 学習指導要領における領域・内容

[第1学年] B 書くこと  
エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。

#### 【平成25年度】

2 私<sup>①</sup>は、もうすぐ始まる職場体験学習に少し不安を感じていますが、私たちを成長させてくれる大切な学習です。には二つの内容が含まれています。次の条件にしたがって書きかえなさい。

○ 意味は変えずに二つの文にすること。  
○ 二文めの始めには接続詞を使い、「学習です。」に対する主語を補うこと。

通過率30.5%

#### 【平成26年度】

2 私<sup>②</sup>も、いつか電子辞書を使いたいと思っていて、軽くて持ち運べるという点でとても便利な道具です。には二つの内容がふくまれています。次の条件にしたがって書きかえなさい。

○ 意味は変えずに二つの文にすること。  
○ 二文めには「道具です。」に対する主語を補うこと。

通過率57.4%

#### 【平成27年度】

2 山本<sup>③</sup>さんは、「鑑賞文の下書き」の平和は世界の人々の願いで、改めてこの切手から平和の大切さを感じる事ができました。には、二つの内容がふくまれていることに気がつき、直すことにしました。次の条件1と条件2にしたがって書きかえなさい。

条件1 意味は変えずに二つの文にすること。  
条件2 二文めには「できました」に対する主語を補うこと。

通過率34.3%

#### 【平成28年度】

3 山本<sup>④</sup>さんは、「言葉の意味のとりえ方は、時代とともに変わってきているので、相手がどのような意味で言葉を使っているかを考えながら、コミュニケーションを図っていきなさい。」には、二つの内容がふくまれていることに気がつき、書き直すことにしました。次の条件1と条件2にしたがって書きかえなさい。

条件1 意味は変えずに二つの文にすること。  
条件2 二文めには「図っていきなさい」に対する主語を補うこと。

通過率35.9%

#### 【平成29年度】

3 古川<sup>⑤</sup>さんは、記事のまとめとして、次の文を書きました。しかし、それを保健委員で読み合ったところ、二つの内容がふくまれていると指摘を受け、書き直すことにしました。あとの条件1と条件2にしたがって書きかえなさい。

朝ごはんには、体温の上昇、エネルギー源や栄養素の補給などのよい効果があるので、これから生活リズムを見直し、心身ともに健康な生活を送るべきである。

条件1 意味は変えずに二つの文にすること。  
条件2 二文めには「送るべきである」に対する主語を補うこと。

通過率34.6%

## 内容の系統

第1・2学年書くこと  
エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気が付き、正すこと。

第1・2学年 伝国イ(カ)  
・主語と述語との関係

伝国…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

第3・4学年書くこと  
オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。

第3・4学年 伝国イ(キ)(ク)  
・修飾と被修飾との関係、文の構成  
・指示語や接続語の役割

第5・6学年書くこと  
オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

第5・6学年 伝国イ(オ)(カ)(キ)  
・語句と語句との関係  
・語感、言葉の使い方に対する感覚  
・文や文章の構成

中学校第1学年 書くこと  
エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。

中学校第2学年 書くこと  
エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。

中学校第3学年 書くこと  
ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。



平成25年度から同様の力を問う問題を出題していますが、通過率を見ると、継続的に課題であることがわかります。なお、平成26年度は他の問題に比べて通過率が高くなっています。これは、二文目に補う主語が、「電子辞書」という文中の言葉であったことに加え、文末の「とても便利な道具です」という表現と結びつきやすい言葉であったためであると考えられます。平成27年度以降の問題は、自分で主語となる言葉を捉え、補う必要があります。

### 通過率の推移

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H29 自校
通過率(%)	30.5	57.4	34.3	35.9	34.6	

※「叙述の仕方の確認」に関する問題は、平成25年度より出題。

解答類型を基に生徒の誤答を分析し、  
個々のつまずきを把握しましょう。



## 誤答(平成 29 年度)と分析

誤答と無解答	H29 (%)	自校 (%)
条件①「『…よい効果があるので、』で文を分け、二文にしている。」を満たしているが、条件②「『送るべきである』に対応すると考えられる主語を補って二文目を適切に書いている。」を満たしていないもの。	43.3	
条件①を満たしていないが、条件②を満たしているもの。	1.2	
上記以外の解答	11.4	
無解答	9.5	

### 継続的な課題

- 複数の内容を一文で表している文を、適切な主語を補って二文に書き分けることができていない。

### 【分析】

誤答から見えてくるのは、主語に対する理解が十分ではないのではないかという実態です。では、生徒の主語に対する理解はどの程度なのでしょう。以下に示すのは、これまで出題してきた「主語・述語の関係」（平成 20 年度以前は「単語の類別」として出題）の通過率の推移です。

「主語・述語の関係」の通過率の推移

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
通過率(%)	35.5	51.7	51.9	63.2	40.1	57.1	63.8	63.2	70.8	71.1	65.6	75.6	79.8

### 【平成 17 年度】通過率 35.5%

次の文の 読んだ に対する主語になっている語句を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア図書館で、<sup>1</sup>私たちは、<sup>ウ</sup>ゆっくり、<sup>エ</sup>本を 読んだ。



通過率が 44.3 ポイント改善

### 【平成 29 年度】通過率 79.8%

次の文の「言った」に対する主語はどれですか。次のア～カの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア僕は、<sup>1</sup>彼に、<sup>ウ</sup>僕の、<sup>エ</sup>おもちゃを、<sup>オ</sup>みんな、<sup>カ</sup>やると 言った。

上記の結果から分かるように、文章中の述語に対する主語は何かを判別することに対する通過率は平成 17 年度には 35.5%でしたが、通過率は徐々に上がり、平成 29 年度には 79.8%の通過率となりました。

学校での授業改善等の取組により、生徒の主語を捉える力は高まっていると言えます。しかし、主語が省略された文において、文脈を捉え、動作等に着目し、その主体となる主語が何であるかを判断し補うことには、「叙述の仕方の確認」の誤答状況から見ても、依然として課題があると言えます。

### 【今後の指導に向けて】

主語については、学習指導要領上では主に小学校の指導事項ですが、生徒の個々の実態を踏まえ、中学校でも課題意識をもって指導することが大切です。まずは、様々な文から主語を捉えさせる指導を、今後も継続して行うことが大切です。

一方で、日本語の場合、必ずしもどの文にも主語があるわけではなく、主語を省略した文も多く存在します。そのため、私達は、例え主語が省略されていても、生徒は主語を捉えながら読めていると思いがちですが、実際に生徒が適切に主語を捉えながら適切に読めているかどうかについては、注意を払う必要があります。主語を適切に捉えられなければ、文章を正しく理解することはできません。様々な文章を読ませる際には、「この文の主語は誰？」といった具合に、機会を見て生徒に確認させる等の指導の工夫が大切です。

また、実際に主語を補って一文を二文に分ける学習活動を設定し、推敲前後の文を比較させて、主語を明確化することで、読みやすくなったり相手に伝わりやすくなったりしたという実感をもたせる指導を行うことも考えられます。

なお、「叙述の仕方の確認」に関する指導改善のポイントについては、平成 25 年度から平成 28 年度までの学力調査報告書に掲載しています。そちらも合わせて御覧ください。

## 授業改善のポイント

- 主語を補うことで、文章が読みやすくなったり相手に伝わりやすくなったりしたという実感をもたせる指導を行いましょう。
- 例えば、三人称で書かれた物語を一人称の物語に書きかえるといった、主語と述語との関係を意識する必然性のある言語活動を仕組みましよう。
- 普段の授業でも生徒に、文脈を捉えさせながら「この文の動作の主体は誰?」、「この文に主語を補うなら?」と問いかけ、確認させるなど、主語と述語との関係を意識させる取組を行いましょう。